

久喜市の市章が 決定しました!



久喜市の「久」の文字を基調に、白色は未来への限りない夢と希望を、青色は市内を流れる河川の清き水と澄んだ空を、黄緑色は豊かな恵みをもたらす田園を、緑色は自然の木々や美しい草花を表し、都市と豊かな自然環境が調和し発展する久喜市を表現しています。



男女共同参画

男女共同参画

男女共同参画シンボルマーク

男女共同参画社会基本法制定10周年(平成21年)に内閣府男女共同参画局が一般公募により決定しました。男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いをこめてしています。

毎年6月23日から29日は、「男女共同参画週間」です(国)
毎年6月は、男女共同参画推進月間です(久喜市)

ご利用ください!

女性の悩み相談

(カウンセリング相談)

相談日程 原則毎月第1・第3金曜日
午後1時～午後5時
相談会場 久喜市役所1階 相談室1・2
相談時間 1人50分
対象 市内在住・在勤・在学の女性
(受付は、申し込み順)
相談員 経験豊富な女性カウンセラー
費用 無料
申込方法 相談日の1ヶ月前から電話又は窓口で受け付けます。



面接、電話相談
どちらでも相談できます。
お気軽にご連絡ください。

女と男いきいきネットワーク久喜 会員募集します

会員相互の交流を深めながら豊かな地域社会づくりを目指して、ともに学び、地域の輪を広げるための活動を行っています。みなさんのご加入をお待ちしています。(団体・個人でも可)



申込み・問合せ 同団体会長 倉持まで
電話/FAX 0480(22)4545

そよがぜの編集員を募集します

男女共同参画や情報紙づくりに関心のあるみなさん、私たちと一緒に情報紙を編集しませんか。

募集人数 5人
応募方法 後ほど広報・ホームページにてお知らせします
応募期限 情報紙発行回数 年1回、3月を予定



編集後記

新久喜市の誕生により、編集員も地域の拡がりがありました。その新たな出会いは、新しい視点につながりました。今号は、久喜市の拡がりに着目して、それぞれの地域で活躍されている「男女」にスポットをあててみました。それぞれの方が、何をしたいかを見つけていく姿はすてきでした。

編集スタッフ 小川和夫・工藤憲代・関根寿美子・田村悦江・若林明美

◆発行/久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3
電話:0480-22-1111(内線2322) FAX:0480-22-3319 メールアドレス:jinken@city.kuki.lg.jp

この情報紙は59,000部作成し、1部あたりの単価は4円です。



～ お互いの人権を尊重しましょう ～

女と男の共生情報紙

SOYOKAZE

そよがぜ

4つの風・ひとつになって 広がる地域力!

久喜市は、平成22年3月23日に1市3町(久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷺宮町)が合併し、新「久喜市」が誕生しました。それぞれの地域は、家庭とともに私たちにとって最も身近な暮らしの場となっており、老若男女、あらゆる「男女」にやさしい地域であることが必要です。

今号は4つの地域が少しでも身近に感じられるように各地域(久喜・菖蒲・栗橋・鷺宮)から、4人の方に登場していただき、それぞれの方に男女共同参画・自分の夢・趣味などを語っていただきました。

今後も、新しい久喜市のみなさまに男女共同参画社会(※1)の推進に向けた情報を発信していきます。



山中三郎さん

**写真撮影、
川柳に情熱を燃やし、
家事にも参加!**

50年以上続けている
写真の腕前はプロ級
しなやかな発想でつくる川柳
(吉羽在住)



平澤健一郎さん

**地域活動は、
大人の部活動!!**

ゆるキャラ「しょうぶパン鬼一」
を作り出した立役者
(菖蒲町菖蒲在住)



野本哲弘さん

**太鼓が好き!
お祭りが好き!**

家族できりもりするそばやさん
実った町おこし、阪東太鼓
(栗橋中央在住)



大木ちはるさん

**子どもの自然な笑顔が
写真になる
子育て中の母親から、
熱い支持を得ている!**

フォトグラファーであり、出張撮影の写真店を起業した経営者
3児の母親 (西大輪在住)

(※1)男女が家庭や地域、職場などのあらゆる場に対等なパートナーとして参画し、自分らしくいきいきと暮らせる社会のことです。

- 久喜・栗橋地域から(山中三郎さん・野本哲弘さん)..... ②
- 菖蒲・鷺宮地域から(平澤健一郎さん・大木ちはるさん)..... ③
- 情報コーナー・編集後記..... ④





山中さんは、根っからの写真好きで、25歳の時に東京の神田にあった写真学校で腕を磨きました。趣味の写真撮影は60歳で退職した以降現在も続き、人物、社会の風景など題材はとても幅が広いです。

写真はコンクールに入選したり、雑誌の表紙にも採用されたりしました。また写真にもうひとつの趣味の川柳を添えることもあります。川柳をつくることはもともと好きでしたが、第2の職場を終えてから、73歳の時に知人に勧められ本格的に始めました。現在、久喜川柳会の活動に参加しています。「川柳は、ユーモア的に自分の意思表示ができ、気軽につくれることが魅力」と話されました。

「サラリーマン時代は仕事一筋で家事・育児は、全て妻任せにしていました。しかし、今家事は自らすすんで行い食事の支度・後片付け、掃除、洗濯など完璧にこなしています。もちろん、妻の立場も尊重し、コミュニケーションをとりながらやっています」と明るく語っていただきました。

これからの夢を尋ねると、「健康であり、これまでの趣味を長く続けたい」とのことであり、また「職場の勤めを終わって地域に馴染むには、過去の肩書きなどしがらみを捨てるのが大切です」と語ったことが印象的でした。

平澤さんは、菖蒲商工会青年部部長や消防団、祭りの幹事長をはじめ数多くの地域活動に積極的に取り組んでいます。菖蒲地域と勝負をかけた、ゆるキャラ「しょうぶパン鬼一」を作り出した、立役者です。菖蒲に生まれ育ち、大学の時一度は離れましたが、卒業後は菖蒲地域に戻り、家業をつぎました。そのころから、地元に対する思いが強くなり、「もっと深く、この土地と付きあおうと思いました」と語ってくれました。平澤さんの企画は、テレビや新聞で話題になることも多く、「彩のかがやき」を応援した「お米を救って、農家を救う」キャンペーン等は地域を思う温かいハートからうまれました。時代の変化にともなう地域力を高めようと、地域を思う熱心さが伝わりました。「人と人の絆が、希薄になっている今の世の中、人とのつながりを再生していけるようにしたいですね。まずは、垣根の低いところから地域活動に参加してほしい」と語っていました。また、育児に関しては、「親学アドバイザー」を取得し、父母の悩みなどを聞き、身近なアドバイザーとしても活躍しています。今後の課題は、「地域の人のつながりを再生すること。そこに私の思いがあります」と目を輝かせました。



平澤さんの企画は、テレビや新聞で話題になることも多く、「彩のかがやき」を応援した「お米を救って、農家を救う」キャンペーン等は地域を思う温かいハートからうまれました。時代の変化にともなう地域力を高めようと、地域を思う熱心さが伝わりました。「人と人の絆が、希薄になっている今の世の中、人とのつながりを再生していけるようにしたいですね。まずは、垣根の低いところから地域活動に参加してほしい」と語っていました。また、育児に関しては、「親学アドバイザー」を取得し、父母の悩みなどを聞き、身近なアドバイザーとしても活躍しています。今後の課題は、「地域の人のつながりを再生すること。そこに私の思いがあります」と目を輝かせました。



野本さんは、旧栗橋町商工会青年部時代に町おこしの一環として、仲間と一緒に平成元年に阪東太鼓のチームを設立しました。メンバーは、小1以上なら男女、年齢、国籍等不問とのこと。これからの夢は、『仕事も家庭もこのまま一生懸命歩んでいきたい。また、阪東太鼓の活動を通して、その中で自分が「人」として成長していくとともに、かかわった仲間たちが成長していく姿をみて、それらが達成感につながっています。太鼓を見てくださる人たちに、元気と勇気

とプラスα・感動を与えられるチームを目指したい」と熱く語っていただきました。「イクメン」(※1)について伺ったところ、「いいと思います」とストレートな答えが返ってきました。野本さんの家庭生活に触れると「妻は、家業のそばやの仕事と一緒にしながら、育児・家事もこなしてきたので、本当に頭が下がる思いがあります」と笑顔で話していただきました。

(※1) 育児に積極的に参加する男性のこと

大木さんは、「仕事で幸せそうな笑顔を写真にしていると、家に帰ってからその幸せな気持ちのまま、ギュッとわが子をだっこしたくなる」と母親の表情で優しく語り、「今の仕事は子育てにとっても、いい影響」と明るく笑います。

出産後、フォトグラファーという仕事の経験を生かし、自宅に事務所を構え、出張撮影の写真店を起業しました。

「子どもを育てながら働いていて良かったことは、土日は撮影の仕事が入るので、子育てを休む時間があり、その離れている時間が、ゆとりにつながり、子育てを楽しむことができます」と前向きに話します。また、「土日の家事、育児は全面的に夫が協力してくれ、子どもが病気の時は母が見てくれるのが心強いです」と感謝の気持ちも大切にされています。そんな、大木さんの提供する写真は、温かい家族の絆を感じます。

大木さんが広げている活動の1つに、障がいや病気のためにスタジオ撮影が困難なお子さんに対して、出張撮影するという仕事があります。「母親の目線で、病気と向き合うおやごさんに提供したい。こういった活動をもっと広く知ってほしい」と広く呼び掛けています。



久喜市男女共同参画を推進する条例を制定

1市3町の合併により、平成22年9月30日、新たに条例を公布・施行しました。

この条例は、市民意見提出制度(パブリック・コメント)により市民のみなさんからお寄せいただいた意見も踏まえたものです。

条例では、男女共同参画の推進に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、男女共同参画の推進に関する市の基本的施策について必要な事項を定めました。

「久喜市男女共同参画を推進する条例」は、久喜市のホームページ(<http://www.city.kuki.lg.jp/>)オンラインサービスの「市の条例、規則、要綱等」から検索できます。

または、久喜市役所人権推進課までお尋ねください。電話 0480(22)1111 内線2322



久喜市を彩る各地域の花々

各地域では、それぞれ花の名前のついたイベントが開催されています



久喜地域の青葉さくら通り



菖蒲地域のラベンダー



栗橋地域の赤花そば



鷺宮地域のコスモスロード